「指導者の娘と服に触れた女の癒し」　　2020 年 01 月 07 日

イエスは振り向いて、この女を見て言われた。「娘よ、元気を出しなさい。あなたの信仰があなたを治した。」その時、女は治った。（マタイ福音書 9 章 22 節）

群衆を外に出すと、イエスは中に入り、少女の手をお取りになった。すると、少女は起き上がった。この噂はその地方一帯に広まった。（マタイ福音書 9 章 25～26 節）

主イエスは律法に縛られる時代は終わり、福音によって解放される喜びの時が来たことを話しておられた。そこへ、一人の指導者が来て、ひれ伏し、「私の娘がたった今死にました。でも、お出でになって手を置いてやってください。そうすれば生き返るでしょう」と、主イエスが手を置いて下されば死んだ娘は生き返ると信じて、依頼した。彼は町の指導者で、民衆に律法を教えるファリサイ派の人々と近しい関係にあっただろうが、娘が死んだ時、ファリサイ派の人々に頼らず、主イエスが病気を癒すと見聞きして、主イエスに、身を低くして懇願した。主イエスは、彼の求めに応じ、彼の家に向かった。ファリサイ派の人々が敵対する主イエスに癒しを求め、主イエスがこれに応じられた事態に、人々は大きな関心を寄せ、押し合いへし合いしながら、二人の後を追った。弟子たちも同行した。

すると人ごみに紛れて、12 年間も出血が止まらない女が、主イエスの衣に触れさえすれば治していただけると信じ、後ろから主イエスに近づき、衣に触れた。出血の止まらない病気は婦人病で、病名を言って癒してくださいとは、女性には言い難い病である。後ろから、そっと触ったのである。彼女は、貧血に苦しんでいた。治療のため、医者や祈祷師に多額なお金を費やしていた。更に、出血は、レビ記 15 章 25 節で「女が月経でもないのに、幾日も血の漏出があり、月経が済んでも漏出するなら、その漏出の汚れの間は、月経と同じように汚れる。彼女は汚れている」と、宗教的に汚れた者と規定されていた。身体的、経済的、そして、宗教的にも苦しみと差別の中に置かれていた。しかし彼女は、槍の先のように鋭い、一途な思いを込めて、主イエスの衣に触れた。その求めに、主イエスは応えてくださった。振り向いて、女を見て、「娘よ、元気を出しなさい。あなたの信仰があなたを治した」と言われると、彼女の出血は止まった。言葉には表し得なかったが、彼女の必死の求めは主イエスに届いた。両者の間で固く結び合った信頼関係が、人間回復をもたらしたのである。彼女は、どれほど嬉しく思ったであろうか。健康が回復し、宗教的にも清い者として、自由に振る舞える。結婚も可能となったのである。

それから主イエスは、指導者の家に向かった。着いてみると、娘の死を悼んで、笛を吹き、泣き女が大声をあげて騒いでいた。指導者の娘であるから、大勢の人々が集まり、悲しみの演出が繰り広げられていたのである。主イエスは、「あちらへ行きなさい。少女は死んだのではない。眠っているのだ」と言われた。人々は、死んだのに眠っているという主イエスの言葉を嘲笑った。群衆を外に出し、主イエスは中に入り、少女の手をお取りになった。すると、少女は起き上がった。死んだ少女を生き返らせた主イエスの噂は、その地方一帯に広まった。

福音書は、服に触れただけで、出血が癒される。死んだ少女が、手を取って起こすと、命へと呼び返されたと伝えている。死者を生者に回復させる力を持ち給う主イエスこそ、神の子、救い主であると、告白している。それは、死んだあなたも主イエスによって、生き返るという福音の告知である。